

2019年8月8日

彰栄リハビリテーション専門学校
校長 鈴木 康洋 殿

学校関係者評価委員会
委員長 滝澤 賢史

学校関係者評価委員会報告

2018年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- (1) 滝澤 賢史 (愛誠病院 医事統括課長)
- (2) 西谷 剛 (本町まんぞく介護 所長)
- (3) 夏目 啓祐 (ねりま西クリニック 事務長)
- (4) 小林 峻 (武南病院) 【本校卒業生】
- (5) 草野 孝昭 (千葉リハビリテーションセンター) 【本校卒業生】

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回：2019年6月22日 (土) (彰栄リハビリテーション専門学校会議室)
第2回：2019年8月 8日 (木) (彰栄リハビリテーション専門学校会議室)
第3回：2020年2月 6日 (木) 予定 (彰栄リハビリテーション専門学校会議室)

3. 学校関係者評価委員会報告

別添1参照

2018 年度自己点検及び自己評価報告書による評価報告（別添 1）

【教育目標と本年度の重点目標の評価】

特に問題はないが、今後も目標達成に向けて継続してほしい。

【基準 1. 教育理念・目的・育成人材像】

教育理念・目的などは文章を簡素化し具体的に明記した方が分かりやすく良いのではないか。

【基準 2. 学校運営】

教員会の意思決定システムを構築する必要があるのではないか。

【基準 3. 教育活動】

・「教員間の共同研究を促進し」とあるが、実習受け入れのために、学校と実習地との良い関係を作る必要があるため、その研究成果を発表してくれるような機会(勉強会等)を設けてほしい。

・認定作業療法士修得のためには、各自教員がどのように取り組むか目標を決めて取り組む必要があると考えている。そのためには症例検討が必須であり卒業生との共同研究も求められる。

【基準 4. 学修成果】

卒業生に対する就職先への就業状況等の調査は行っていないとのことであるが、卒業生がどのように活躍しているのかは、新入生への動機付けのためにも、調査した方が良いのではないか。

転々と職場を変えている人は連絡が付かないが、調査して示せるようにしていきたい。

【基準 5. 学生支援】

・各担任が年に 1 回以上全員に面談を行っているとあるが、前後期にそれぞれ 1 回は何も問題がない人に対しても面談し、教員と話す機会を作ることが学生支援として必要ではないか。

・オフィスアワーについては、システム作りが求められる。

・麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎、B 型肝炎の抗原抗体検査は来年度から 1 年生全員に実施する。

【基準 6. 教育環境】

防災訓練は年に 1 回、必ず実施するようにしたほうが良い。

【基準7. 学生の募集と受け入れ】

特に問題はないが、継続して検討を行う。

【基準8. 財務】

特に問題はないが、継続して検討を行う。

【基準9. 法令等の遵守】

特に問題はないが、継続して検討を行う。

【基準10. 社会貢献・地域貢献】

- ・ 表彰表現研究所のあり方として、研究成果が学内だけに制限されているが、学会発表などが出来る方向に検討していく必要がある。
- ・ 卒業生との共同研究も視野に入れて今後検討していく。
- ・ 地域貢献としても、作業療法士のイメージ作りの体験の場としても、学校として学生にボランティア活動を強制的にやらせてみるのも良いのではないか。